

— 道徳の授業を進めるに当たって —



**Ibaraki Teacher Training Center**

茨城県教育研修センター教職教育課

# 目 次

I	教育活動全体を通じて行う道德教育	1
II	道德教育の要としての道德の時間（「道德」）	2
III	道德の時間（「道德」）授業構想	4
IV	学習指導過程の創意工夫	6
V	多様な学習指導の構成	8
VI	道德教育の評価	13
VII	参考資料	17
	1 資料選定の観点	
	2 資料分析表	
	3 授業参観シート例	
	4 授業参観シート	

## I 教育活動全体を通じて行う道徳教育

### 1 道徳教育のねらい

#### (1) 小学校・中学校

学校における道徳教育は、豊かな心をはぐくみ、人間としての生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

#### (2) 高等学校

道徳教育は、豊かな心をもち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道徳性を育成することをねらいとする。

### 2 学校段階における重点の明確化

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきもの

**ア 幼稚園においては規範意識の芽生えを培うこと**

**イ 小学校においては生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底するとともに自己の生き方についての指導を充実すること**

(低学年)

幼児教育との接続に配慮し、例えば、基本的な生活習慣や善悪の判断、きまりを守るなど、日常生活や学習の基盤となる道徳性の指導や感性に働きかける指導を重視する。

(中学年)

例えば、集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合うなど、体験や人間関係の広がりにも配慮した指導を重視する。

(高学年)

中学校段階との接続も視野に入れ、他者との人間関係や社会とのかかわりに一層目を向け、相手の立場の理解と支え合い、集団の一員としての役割と責任などに関する多様な経験を生かし、夢や希望をもって生きることの指導を重視する。

**ウ 中学校においては思春期の特質を考慮し、社会とのかかわりを踏まえ、人間としての生き方を見つめさせる指導を充実すること**

・道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導を重視する。その際、法やきまり、社会とのかかわりなどに目を向ける、人物から生き方や人生訓を学んだり自分のテーマをもって考え討論したりするなど、多様な学習を促進する。

また、中学校は教科担任制であり、複数の教師が生徒の教科等の指導にかかわることを生かして、学年や学校において協力し合う指導体制による展開を重視する。

**エ 高等学校においては社会の一員としての自己の生き方を探求するなど人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める指導を充実すること**

・学校としての指導の重点や方針を明確にし、道徳教育の全体計画の作成を必須化するとともに、各教科や特別活動、総合的な学習の時間がそれぞれの特質を踏まえて担うものについて明確にする。

とりわけ、基本的な生活習慣や人間としてしてはならないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うとともに、それらを基盤として、法やルールの意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てる。

### 3 道徳教育の進め方

#### (1) 小学校・中学校

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

#### (2) 高等学校

本県の高等学校における道徳教育は、「道徳」を要として各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動などの教育活動全体を通じて、一人一人の道徳性の育成を図る。

## II 道徳教育の要としての道徳の時間（「道徳」）

### 1 道徳の時間（「道徳」）の目標

#### (1) 小学校・中学校

道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってそれらを補充、深化、統合して

（小学校） 道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、**道徳的実践力**を育成する。

（中学校） **道徳的価値**及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、**道徳的実践力**を育成する。

#### (2) 高等学校（茨城県）

生徒一人一人が**道徳的価値**や人間としての在り方生き方に関する自覚を深め、豊かな心を育て、未来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする**道徳的実践力**を高める。

### 2 道徳の時間（「道徳」）の特質

児童生徒一人一人が、一定の道徳的価値を含むねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、

（小学校） 道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達の段階に即して深め、内面的資質としての**道徳的実践力**を主体的に身に付けていく**時間**

（中学校） 道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に**道徳的実践力**を身に付けていく**時間**

（高等学校） 道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的に**道徳的実践力**を身に付けていく**時間**

### 3 道徳的価値の自覚とは

#### (1) 道徳的価値について理解する。

- ・ねらいとする道徳的価値が大切であることを理解する。（価値理解）
- ・道徳的価値は大切であるが、実現は難しい。（人間理解）
- ・道徳的価値に関しては、多様な感じ方・考え方がある。（他者理解）

#### (2) 自分とのかかわりで道徳的価値を捉える。

- ・道徳的価値を自分の問題として捉える。

#### (3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

- ・ねらいとした道徳的価値を視点に、現在の自分がどのような状況にあるのかを知る。

【赤堀博行 道徳教育で大切なこと（東洋館出版社）参考】

### 4 道徳的実践力と道徳性の関係

学校の教育活動全体を通じた道徳教育により、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。道徳の時間（「道徳」）は、道徳的実践力を育てる。

#### (1) 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。

#### (2) 道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

#### (3) 道徳的実践意欲と態度

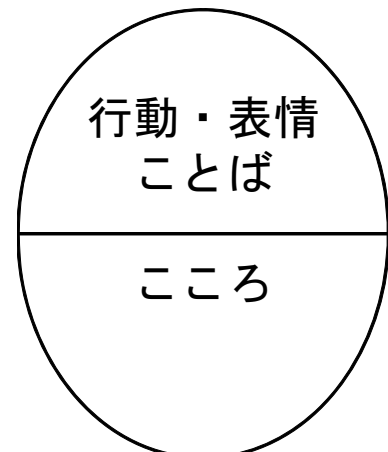
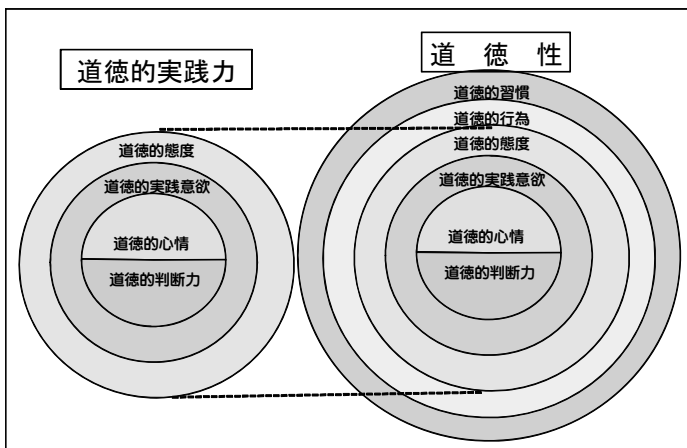
道徳的実践意欲は、道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

#### (4) 道徳的行為

道徳的実践力に裏付けられた具体的な行為。

#### (5) 道徳的習慣

長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方。



【左資料 赤堀博行 「道徳教育で大切なこと」東洋館出版社】

【右資料 横山利弘 「生徒指導の充実のために」独立行政法人教員研修センター】

### (参考) 生徒指導と道徳教育

「生徒指導は、行動や言葉から心へと迫っていかうとすることなのですが、今、根本的に問題となっているのは、行動・言葉と心のバリアが厚いために、行動・言葉の指導までは成功しているけれども、心の変化まで届いていないのです。(中略)

そこで、もう一つの教育活動というのが、心の方から上に(行動や言葉に)行こうとするもので、これが道徳教育なのです。(中略)

道徳教育は、子どもの心を育てていくことに眼目をおいています。

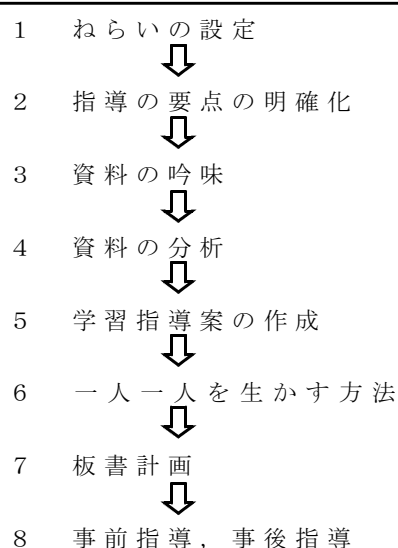
【横山利弘 生徒指導の充実のために(独立行政法人教員研修センター)】

## Ⅲ 道徳の時間(「道徳」)授業構想

### 1 ねらいの設定

指導の内容や教師の指導の意図を明らかにする。

※この授業を通して、どのような道徳的心情、判断力、実践意欲と態度を育てようとしているのかを記述する。作成に当たっては、具体的な計画を立てるために道徳的実践力のどの側面に重点を据えるかを明確にし、ねらいの文末で「〇〇の心情を養う」、「〇〇の判断力を培う」、「〇〇の実践意欲を育てる」、「〇〇の態度を育てる」などと表記する。



### ねらいの構造

例1) 小学校第3学年 2-(2)

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする 心情を育てる。  
道徳的価値(内容項目) 道徳性の様相

例2) 中学校 3-(2)

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする 態度を育てる。  
道徳的価値(内容項目) 道徳性の様相

「平成25年度道徳教育指導者養成研修(中央指導者研修)」(赤堀 博行)講師資料

### 2 指導の要点の明確化

ねらいに関する児童生徒の実態、それを踏まえた教師の願いを明らかにし、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導との関連を考慮して、指導の要点を明確にする。

### 3 資料の吟味

- (1) ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているか。
- (2) 児童生徒の実態に適合しているか。(これまでの児童生徒の体験等を踏まえる。)
- (3) 資料をどのように活用すれば、学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めさせることができるか。

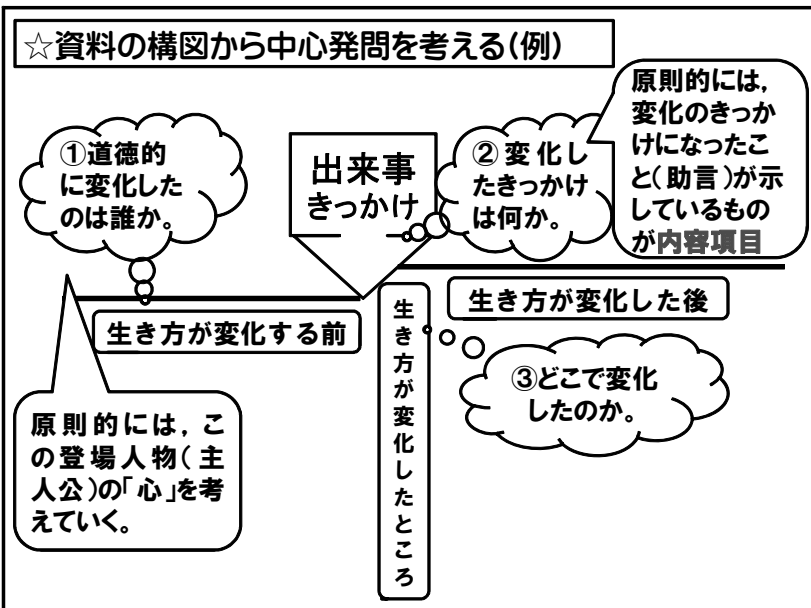
#### 4 資料の分析

- (1) 場面ごとに区切る。
- (2) 中心人物の言動を抜き出す。
- (3) 言動の背後にある気持ちや考えを明らかにする。
- (4) 気持ちや考えを支えている道徳的価値を明らかにする。
- (5) 最も考えさせたい場面（中心場面）を設定し、中心発問を一つ考える。  
 ※ P 5 の資料の構図から中心発問を考える（例）を参照
- (6) 中心場面を充実させるための基本発問を二つか三つ程度考える。
- (7) それぞれの発問に対する児童生徒の反応を予想する。

「発問」づくりに当たっては、本時の「ねらい」及び「ねらいとする価値」を押さえ、児童生徒に何を考えさせようとするのかということを確認にする。

資料分析表の記載方法

学年	主題名	資料名	出典
ねらい			
場面・話の筋 (資料に含まれる価値)	中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動と心の動き	・基本発問 ◎中心発問
場面 1 ・ _____	・ 中心人物の言動を抜き出す。	・ 関連人物の言動を抜き出す。	予想される児童生徒の反応
場面 2 ・ _____	・ 言動の背後にある気持ちや考えを明らかにする。	・ 言動の背後にある気持ちや考えを明らかにする。	
場面 3 ・ _____	・ 気持ちや考えを支えている道徳的価値を明らかにする。	・ 気持ちや考えを支えている道徳的価値を明らかにする。	



「道徳の時間の指導を考える」  
 横山 利弘 「千葉教育」平成23年7・8月号を参考に作成

## 5 学習指導案の作成

### (1) 主題名

授業者以外の教師や授業参観者などが主題名を見て、「何を」指導するのか、授業の内容が把握できるように表現することが大切である。そこで、一時間の道徳の時間において、どのような道徳的価値をねらいするのか、どのように資料を活用するかを構想する指導のまとまりとして、主題名を「ねらい」と「資料」によって構成して表現する。また、資料名だけでおおよその授業内容が把握できるような場合には、資料をそのまま主題名とすることも考えられる。

主題名の表記例	
例1) 小学校低学年	
・ねらい→ 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。	} 主題名 やさしいきもちで
・資料→ はしの上のおおかみ	
例2) 中学校	
・ねらい→ 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	} 人間愛
・資料→ 足袋の季節	

「平成25年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）」（赤堀 博行）講師資料

### (2) 資料の出典

資料名には、その資料の出所である「出典」を明記する必要がある。これは、授業を参観した人が事後に改めて資料を調べたり、授業分析を行ったり、自分自身の授業に生かしたりする場合に役立つ。

例1) 読み物資料	
ア 資料名「うばわれた自由」	
(出典 文部省 小学校 読み物資料とその利用－「主として自分自身に関すること」－)	
イ 資料名「〇〇〇〇〇〇」	
(出典 〇〇出版社 中学校道徳 2年)	
ウ 資料名「〇〇〇〇〇〇」	
(出典 〇〇書房 〇〇文庫)	
例2) 視聴覚資料等読み物資料	
ア 資料名「花さき山」：(出典 〇〇社 子どもビデオ劇場3)	
イ 資料名「マザーテレサ」：(出典 〇〇テレビ「〇〇〇〇」より)	
ウ 資料名「クジラを救え」：(出典 〇〇新聞 平成〇年〇月〇日朝刊)	

「平成25年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）」（赤堀 博行）講師資料

### (3) 主題設定の理由

学習指導案における「主題設定の理由」では、ねらいや指導内容についての教師の考え方、それにかかわる児童生徒の実態と教師の願い、活用する資料の特質や取り上げた意図などを記述するようにする。具体的には、次のような柱立てで記述することで、教師の指導観を記述する。



### 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値

- ・授業者が、一時間で指導する主題に含まれる道徳的価値をどのように理解しているか、児童生徒にねらいとする道徳的価値をどのように考えさせ、学ばせるかを示す。
- ※授業者の道徳的価値にかかわる考え方が独善的にならないように留意する。

#### (2) 児童（生徒）の実態

- ・ねらいとする道徳的価値にかかわる児童生徒の実態を示す。（一般的な行動傾向を示すものではない。）
  - ・授業者の価値感と児童生徒の実態を基に、育てたい児童生徒像を明確にする。
- ※必要がないのに、男子〇名、女子〇名のような記述をしない。

#### (3) 資料について

- ・資料のあらすじとともに、授業者の価値観と育てたい児童生徒像を踏まえた資料の効果的な活用の仕方について示す。

#### (4) 本時の学習

資料分析を基に、ねらい、児童生徒の実態、資料の内容などから、授業の流れの中心となる展開の段階から考え、その展開のための導入、終末はどうあったらよいかを考える。

その際、児童生徒の心に響く道徳授業を工夫するために、体験活動や日常生活の具体的事柄をどのように活用するか検討する。

#### 道徳の授業の学習指導過程(例)

<b>導入</b>	ねらいとする道徳的価値への方向付け ・これまでの経験を想起する。 ・問題場面を把握する。 ・主題に対する興味・関心を高める。 等
<b>展開</b>	資料を基にした、ねらいとする道徳的価値の追求（前段） ・主人公の行為とその動機、心情に迫る。 ・多様な価値観（感じ方・考え方）を引き出す。 ・自分なりの道徳的価値を深める。 等 ----- 自分自身の問題として考える段階（後段） （資料場面から、現実の自分に目を向ける。） ・今までの自分を振り返る。 ・人間としての在り方を吟味し、生き方を自覚する。 等
<b>終末</b>	ねらいとする道徳的価値の整理・まとめ ・教師の説話 ・心にそっと決意する。（余韻を残す） 等

#### 6 一人一人を生かす方法

- (1) 様々な表現方法の検討
- (2) グループでの活動や話し合い方法の検討
- (3) 意図的指名

## 7 板書計画

- (1) 指導の意図や資料の内容の整理
- (2) 児童生徒の感じ方や考え方の整理

## 8 事前指導，事後指導

- (1) 豊かな体験活動や日常的な指導，各教科等での指導との関連。
- (2) 事前の実態把握や事後の個別的な指導を検討する。
- (3) 家庭や地域社会との連携を検討する。

# IV 学習指導過程の創意工夫

## 1 導入の工夫

主題に対する児童生徒の興味や関心を高め，学習への意欲を喚起して，児童生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る。

- (1) 場面絵や写真，調査の結果などの提示
- (2) 生活体験を想起させた発表
- (3) アンケート調査の結果等の資料の提示
- (4) 資料に関する絵画や写真，VTRや小道具などを見せた視覚的な印象付け
- (5) 録音テープの声や音楽CDなどを使って聴覚的な印象付け
- (6) 主題のねらいに関わる新聞記事，児童生徒の作文，詩や短歌などの活用
- (7) 地域の人材の活用
- (8) 実験や観察など実物に触れる体験などを取り入れること

## 2 展開の工夫

主題のねらいを達成するための中心となる段階であり，中心的な資料によって，児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める段階である。

### (1) 資料提示の工夫

- ア スライド，OHPシート，VTR，DVD等としての提示
- イ 素材を録音による資料に構成しての提示
- ウ 読み物資料を繰り返し，あるいは部分的に見せたり聞かせたりする提示
- エ 紙芝居のような提示
- オ 影絵，人形やペープサートなどを生かした劇のような提示

### (2) 発問構成の工夫

- ア 子どもの意識の流れや疑問を予想した発問
- イ 考える必然性や切実感のある発問
- ウ 自由な思考を促す発問
- エ 日常の具体的な事柄を話題した発問
- オ 児童生徒が体験を通じて感じたことや考えたことを話題にした発問

児童生徒の実態と資料の特質を押さえた発問構成の工夫や資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め，深く自己を見つめることができるようにする。

### (3) 話合いの工夫

ア 座席の配置

イ グループやペアによる話合い

ウ 名札の活用，座席の移動などによる一人一人の立場を明確にした話合い

意見を出し合う，まとめる，比較するなどの目的に応じて効果的に話合いが行われるようにする。

### (4) 表現活動の工夫

ア 動作化・・・登場人物の動作を模倣し，反復することで登場人物の感じ方，考え方を自分との関わりで考える。

イ 劇化・・・資料の内容や考えさせたい場面，状況を演じることで道徳的価値を理解させたり，考えさせたりする。

ウ 役割演技・・・特定の場面や状況における登場人物になり切って即興的に自由に演じ道徳的価値を共感的に体験させる。

表現活動を通して自分自身の問題として深くかかわり，ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め，主体的に道徳的実践力を身に付ける。

### (5) 板書を生かす工夫

ア 思考の流れや順序を示した板書

イ 構造的に示した板書

ウ 中心部分を浮き立たせた板書

板書は児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなる。

## 3 終末の工夫

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして，今後の発展につなぐ段階である。

### (1) 児童生徒の感想の発表や書く活動

書く活動を通して，児童生徒は，自分自身のものの見方，考え方，感じ方などを確かめたり，まとめたり，記録に留めたり，それらをもとに今までの自分のものの見方，考え方，感じ方などを振り返ることができる。

### (2) 教師の説話

ア 教師の体験談や願い

イ 児童生徒の日常生活における身近な話題

ウ 児童生徒の関心や視野を広げる時事問題

エ ことわざや格言，心に残る標語

オ 地域の自然や伝統文化に関すること

教師の人間性がにじみ出る説話は，児童生徒の心情に訴え，深い感銘を与える。また，教師が自らを語ることによって，児童生徒との信頼関係を深めることもできる。

## V 多様な学習指導の構成

学級の実態，指導者の意図，資料の内容，他の教育活動等との関連などに応じて柔軟に発想することによって，次のような学習活動を構想することができる。

### 1 多様な読み物資料による学習指導

詩，長文の物語や伝記，戯曲，実話，論説文，インターネットによる資料等

※ 共感を中心に展開するだけでなく，感動を大事にする展開，迷いや葛藤を大切に  
した展開，知見や気づきを得ることを大切にした展開，批判的な見方を含めた展開  
にしたりするなど，資料の特質に応じて，資料の提示の仕方や取扱いについて工夫  
する。

### 2 体験活動を生かすなどの学習指導

日常の体験を想起する問いかけをしたり，また体験したことの実感を深めやすい資  
料を生かしたり，実物の観察や実験等を生かした活動，対話を深める活動，模擬体験  
や追体験的な表現活動を取り入れたりする。

### 3 各教科等との関連をもたせる学習指導

#### (1) 小学校

##### ア 国語科

国語による表現力と理解力とを育成するとともに，人間と人間との関係の中で，  
互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは，学校の教育  
活動全体で道徳教育を進めていく上で，基盤となるものである。また，思考力や  
想像力及び言語感覚を養うことは，道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。  
さらに，国語を尊重する態度を育てることは，伝統と文化を尊重し，それらをは  
ぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

##### イ 社会科

地域の社会生活及び地域の発展に尽くした先人の働きなどについての理解を図  
り，地域社会に対する誇りと愛情を育てることや，我が国の国土と歴史に対する  
理解と愛情を育てることは，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が  
国と郷土を愛することなどにつながるものである。また，国際社会に生きる平和  
で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち，自他の人格を尊重し，社会  
的義務や責任を重んじ，公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の  
基礎を養うことは，主として集団や社会とのかかわりに関する内容などと密接な  
かかわりをもつものである。

##### ウ 算数科

児童が日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え，表現する能力を育  
てることは，道徳的判断力の育成にも資するものである。また，数理的にもものご  
とを考えたり処理したりすることを生活や学習に活用しようとする態度を育てる  
ことは，工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることにも資するもので  
ある。

## エ 理科

栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てることは、生命を尊重し、自然環境を大切にする態度の育成につながるものである。また、見通しをもって観察、実験を行うことや、問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養うことは、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度の育成にも資するものである。

## オ 生活科

自分と身近な人々、社会及び自然と直接かかわる活動や体験を通して、自然に親しみ、生命を大切にするなど自然とのかかわりに関心をもつこと、自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせること、生活上のきまり、言葉遣い、振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付け、自立への基礎を養うことなど、いずれも道徳教育と密接なかかわりをもつものである。

## カ 音楽科

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。なお、音楽の共通教材は、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさや、夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

## キ 図画工作科

つくりだす喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、造形的な創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

## ク 家庭科

日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てることは、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながるものである。また、家庭生活を大切にする心情をはぐくむことは、家族を敬愛し、楽しい家庭をつくり、家族の役に立つことをしようとする事につながるものである。

## ケ 体育科

集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながるものである。

## コ 外国語活動

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めることは、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めることにつながるものである。

## (2) 中学校

### ア 国語科

国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を養

い言語感覚を豊かにすることは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。更に、国語を尊重する態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

## イ 社会科

我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。また、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、権利・義務の主体者として公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の基礎を養うことは、主として集団や社会とのかかわりに関する内容などと密接なかかわりをもつものである。

## ウ 数学科

生徒が事象を数理的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成にも資するものである。また、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てることは、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資するものである。

## エ 理科

自然の事物・現象を調べる活動を通して、生物相互の関係や自然界のつり合いについて考えさせ、自然と人間とのかかわりを認識させることは、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成につながるものである。また、目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探究する能力を育て、科学的な見方や考え方を養うことは、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度の育成に資するものである。

## オ 音楽科

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。なお、音楽の共通教材は、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの、我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

## カ 美術科

創造する喜びを味わうようにすることは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

## キ 保健体育科

集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながるものである。

## ク 技術・家庭科

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得することは、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながるものである。ま

た、進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てることは、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとするものにつながるものである。

#### ケ 外国語科

外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながるものである。

### (3) 高等学校

#### ア 国語科

国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で、基盤となり、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。

さらに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することなどにつながる。

#### イ 地理歴史科

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することなどにつながる。

#### ウ 公民科

公民科の「現代社会」及び「倫理」の目標には「人間としての在り方生き方」を掲げており、中核的な指導の場面として重視する。「現代社会」では、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図る。「倫理」では、人間としての在り方生き方への関心を高め、その手掛かりとして先哲の考え方を取り上げて自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めるとともに、課題を探究する学習を一層重視し、論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにする。

#### エ 数学科

生徒が事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成にも資する。

#### オ 理科

自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球の環境や生態系のバランスなどの事象を理解させ、自然と人間とのかかわりについて認識を深めさせることは、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成につながる。また、目的意識をもって観察、実験を行うことや、科学的に探究する能力を育て、科学的な自然観を育成することは、道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てることにも資する。

## カ 保健体育科

運動の実践は、技能の獲得とともに、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、チームの合意形成に貢献しようとするなどの公正、協力、責任、参画などに対する態度の育成にも資するものである。集団でのゲームなど運動することを通して、粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。また、健康・安全についての理解は、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することにつながる。

## キ 芸術科

芸術を愛好する心情を育て、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながる。また、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことは道徳性の基盤の育成に資する。

## ク 外国語科

外国語を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深めることは、世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながる。

## ケ 家庭科

生活に必要な知識と技術を習得することは、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労の尊さや意義を理解することにつながる。また、家族・家庭の意義を理解させることや主体的に生活を創造する能力などを育てることは、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしようとする事につながる。

## コ 情報科

情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させることは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながるものである。

## サ 主として専門学科において開設される各教科

例えば、農業科の目標に「農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し」と示すなど、各教科を通じて職業人としての規範意識や倫理観の育成といった観点からの改善を図り、教育活動の様々な場面で人間としての在り方生き方に関する指導を一層充実する。

## シ 学校設定教科に関する科目

学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができることを示し、配慮事項として、「産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養う」ようにすることや、「自己の将来の生き方や進路についての考察」を行う指導をする。

※ 各教科等のそれぞれの特質を踏まえ、道徳の時間の指導と関連を持たせる指導を進める。



#### 4 複数時間扱いの学習指導

- (1) 複数の資料を連結させて用いていく進め方
- (2) 中心的な資料に他の副次的な資料を関連させて用いていく進め方
- (3) 中心的な資料そのものを数時間かけて深めていく進め方

#### 5 学級経営と関連をもたせた学習指導

学級での生活が道德の時間の学習に生かされ、逆に道德の時間の学習が日常生活に生きて働くような学習指導過程の工夫

#### 6 家庭や地域社会との連携を図った学習指導

- (1) 家庭や地域の題材を資料として生かした学習
- (2) 家庭や地域での話合いや取材を生かした学習
- (3) 地域の人や保護者の参加を得た学習

#### 7 図書館等の施設や校外の場所を生かした指導

- (1) 学校図書館や公立図書館を生かした指導
- (2) 博物館を生かした指導

ねらいとする内容によっては、環境を生かすことで思わぬ効果をもたらすこともある。

## VI 道德教育の評価

### 1 評価の意義

道德教育における評価については、児童生徒自身による自己評価を生かして新たな目標への努力を支援するとともに、児童生徒の道德的なよさや道德的成長に対する共感的な理解に基づいて指導計画や指導方法を評価し、その結果を指導の改善に生かしていくことが求められている。

したがって、学校の教育活動全体を通じて行われる道德教育及び道德の時間について、指導の前後における児童生徒の心の変容を様々な方法でとらえ、自らの指導を評価し、指導計画や指導方法の改善に生かしていく必要がある。その際、よりよく生きようとしている児童生徒自身による評価の重要性を認識し、その内容を指導の改善に生かすとともに、児童生徒自身が道德的価値及び生き方についての自覚という観点から、自己を深く見つめ、考え、自らの道德性をはぐくんでいこうとする力を高めることが大切である。

ただし、道德の時間（「道德」）に関して、道德性は人格の全体に関わるものであり、数値などによって不用意に評価してはならない。

### 2 評価の基本的な態度

教師にとって最も重要なのは、児童生徒は一人一人がよりよく生きる力をもっているという信念と、児童生徒の成長を信じ願う姿勢をもつことである。そして、教師自らが心を開き、児童生徒と心と心の触れ合いをもとうと努めることである。

その際大切にすべきことは、児童生徒自身が自己の姿をどのように理解し、自己のよりよい生き方を求めていく意欲や努力をどのように評価しているかを児童生徒の立場に即して理解しようとすることである。そうすることで、児童生徒の意欲や努力をその内

面から支えていくことが可能になるからである。

あくまでも児童生徒の道徳性の評価は、児童生徒が自らの人間としての生き方についての自覚を深め、人間としてよりよく成長していくことを支えるためのものである。

### 3 評価の観点

道徳性は人格の全体にかかわるものであり、いくつかの要素に分けられるものではないが、その理解と評価に当たっては、指導との関係から、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度及び道徳的習慣について分析することが多い。

#### (1) 道徳的心情

道徳的心情については、道徳的に望ましい感じ方や考え方、行為に対して、あるいは逆に望ましくない感じ方や考え方、行為に対して、児童生徒がどのような感情をもっているかについて把握する。

#### (2) 道徳的判断力

道徳的判断力については、道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、児童生徒がどのように思考し判断するか等を把握する。

#### (3) 道徳的実践意欲と態度

道徳的実践意欲と態度については、学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか等を把握する必要がある。

#### (4) 道徳的習慣

道徳的習慣は、特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているかを把握する。

### 4 評価の方法

道徳性を理解し評価するためには、教師と児童生徒の心の触れ合いを通して、以下に示す方法等を用い、共感的に理解し評価する。

#### (1) 観察や会話による方法

ねらいや方法に応じて、あらかじめ観察の観点を定めるなどして組織的、計画的、継続的に観察を行ったり、一緒に活動しながら観察したり、意図的に話しかけたり、授業で意図的に指名をしたりして様子を見るといったことも考えられる。

その際、外に表れた言葉や行動からだけで判断するのではなく、態度や表情の微妙な変化からその背景にある心の動きをとらえるなど、児童生徒の内面の理解に努めることが大切である。

#### (2) 面接による方法

直接に児童生徒と相対して話し合うことで、児童生徒の道徳的な感じ方、考え方などを理解しようとする方法であり、場を明確に設定する場合と随時に行う場合が考えられる。

面接での対話が深まることによって、児童生徒の話すことの内容や話し方や表情から、児童生徒の内面をより深く理解できる。

### (3) 質問紙などによる方法

教師があらかじめ作成した質問や児童生徒が直面すると考えられる問題場面での児童生徒の心情，判断やその理由などを回答してもらうことによって必要な情報を収集するものである。道徳性にかかわる児童生徒の自己評価を知る上で有効であるのみならず，児童生徒自身が自己理解を深めることにも役に立つ。また，指導の前後に行えば，児童生徒の自己評価の変化などを知ることができ，指導方法を評価し改善するための有益な資料ともなる。ただし，質問紙は，あくまで，児童生徒を共感的に理解していく上での一つとして扱うべきものである。

### (4) 作文やノートなどによる方法

作文や生活ノートなどには，児童生徒の生活体験，反省，意見，希望などが感情を伴って述べられているので，児童生徒の内面を理解することができる。作文やノートなどによる理解においては，作文の行間に込められた感じ方や考え方を的確に読み取る。

### (5) その他の方法

道徳的な成長への児童生徒の努力の姿や教師の指導の効果などについて具体的な事例をもとに検討していく事例研究法などもある。

## 5 評価の創意工夫と留意点

- (1) 児童生徒との心の触れ合いを通して得られる共感的理解を基盤として，児童生徒自身のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けて，道徳性に関する自己理解・自己評価をその内面から理解していくように努める。
- (2) 児童生徒理解の観点を固定的に考えず，児童生徒のよさや個性を積極的に受け止め，多面的で幅広い視点に立った評価を心掛ける。
- (3) 児童生徒一人一人の姿や変化を具体的に記述できるように努力し，個に目を向けた評価となるようにする。
- (4) 自分を表現する得意な面が児童生徒によって違うことなどから，多様な方法を生かしながら評価するように努める。また，可能な場合，複数の人の評価資料を得て評価できるようにする。
- (5) 児童生徒の一時期の様子だけで即断することなく，継続的に観察するなどして，長期的な視点に立った評価を心掛ける。
- (6) 道徳性理解のための資料は，児童生徒のプライバシーにかかわる内容を含んでおり，その収集の仕方や収集した資料は慎重に扱う必要がある。
- (7) 評価の結果を児童生徒の個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。
- (8) 特に指導を要する児童生徒に気付いたときは，直ちに適切な指導をすることが必要である。その場合，学級全体に対する指導と同時に，個別に相談的な指導を行う必要がある。道徳教育推進教師，経験豊かな教師や教育相談等の専門家の助言を求めたり，必要に応じて学年や学校全体で取り組んだりすることも大切である。

6 道徳の時間に関わる主な評価の断面

ア 事前の実態把握	→ ・ねらいを構想に生かす ・資料の選定や指導の手立てに生かす	日常観察，作文，調査，聞き取り 等
イ 授業時の学習過程での状況の見取り	→ ・その場での個別指導等に生かす ・次の学習過程での指導に生かす	学習の様子 発言や記述，表現 等
ウ 授業終了時の児童生徒の変化等の見届け	→ ・児童生徒一人一人の実態把握を深める ・児童生徒の日常指導に生かす ・学級全体の傾向を知り経営に生かす	学習の様子 発言や記述，表現 等 事後アンケート 等
エ 一定期間にわたる変化等の見届け	→ ・児童生徒の自己を見る目の変化を捉えて個別指導等に生かす	記録や記述の積み重ね 等

## Ⅶ 参考資料

資料選定の観点資料分析表

学年	資料	氏名
	観 点	評定：「○」印を付ける ←よい  よくない→
	(1) 人間尊重の精神にかなっている。	4 — 3 — 2 — 1
	(2) ねらいを達成するのにふさわしい。	4 — 3 — 2 — 1
	(3) 児童生徒の興味や関心，発達の段階に応じている。	4 — 3 — 2 — 1
	(4) 多様な価値観が引き出され深く考えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(5) 特定の価値観に偏しない中立的なものである。	4 — 3 — 2 — 1
	(6) 児童生徒の感性に訴え，感動を覚えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(7) 人間の弱さやもろさに向き合い，生きる喜びや勇気を与えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(8) 生や死の問題，先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(9) 体験活動や日常生活等を振り返り，道徳的価値の意義や大切さを考えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(10) 悩みや葛藤等の心の揺れ，人間関係の理解等の課題について深く考えることができる。	4 — 3 — 2 — 1
	(11) 多様で発展的な学習活動を可能である。	4 — 3 — 2 — 1
	(12) 総合的に，この資料はよい教材として適切といえるか。	4 — 3 — 2 — 1
資料に対する意見・感想		

資料分析表

学年	主題名	資料名	出典		
ねらい					
場面・話の筋 (資料に含まれる価値)	中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動と心の動き	「・」基本発問 「◎」中心発問	予想される児童生徒の反応	

授業参観シート例

記入者 ( )

日時	平成 年 月 日 ( )	教科等	道徳	学年	
単元名				授業者	
授業参観者の感想及び改善の方策について					
導入	<b>道徳的価値の自覚に向けての動機付けや学習意欲を喚起する。</b>				
	<p>(感想) 新聞記事を活用し、ねらいについての動機付けについて行っていたのはよかった。しかし、一部の児童(生徒)には分かりづらかったようであった。</p> <p>(改善の方策) 児童(生徒)がもっと身近に自分との関わりで捉えることができるよう、日常体験と絡めた話題を提示した方がよいのではないか。</p>				
展開	<b>ねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める。</b>				
	<b>資料提示について</b>				
	<p>(感想) 読み聞かせの声の大きさはよかった。しかし児童(生徒)が資料を十分に理解するには、読む速度が少し速いような気がした。</p> <p>(改善の方策) 段落ごとに間を入れて読んだ方が、児童(生徒)が登場人物に自分を重ね、より臨場感を持って資料に入ることができるのではないか。</p>				
	<b>発問について</b>				
	<p>(感想) 発問の答えが、資料中に描かれており、実際、児童(生徒)は答えを資料中から抜き出して答えていた。</p> <p>(改善の方策) 発問事項を児童(生徒)が自分自身に問いかけてから答えるような発問にする。</p>				
	<b>話し合い活動、表現活動について</b>				
	<p>(感想) 何人かの児童(生徒)に意図的指名を行い、発問に答えさせていたが、広がりがなく、先生と発問に答えた児童(生徒)の対一のやりとりになっていた。</p> <p>(改善の方策) 「〇〇君から、こういう考えが出されましたが、皆さんはどう思いますか」とか「〇〇君の考えと異なった考えの人はいますか」とか「〇〇君の考えに、△△君はどう思いますか」などの意図的指名を行い、出された考えを学級(ホームルーム)に投げかけてみてはどうだろうか。</p>				
<b>板書について</b>					
<p>(感想) 一人一人の発見を大切に、板書に記載したのはよかった。しかし児童(生徒)から出された様々な考えをそのまま板書していたので、授業でねらいとする道徳的価値が曖昧になっていたように思う。</p> <p>(改善の方策) 児童(生徒)の発言を類型化した板書を行ったほうがよいと思う。そうすれば、児童(生徒)は、自分に近い考えや自分と異なる考えを視覚的に捉えることができ、ねらいとする道徳的価値に対して思考を深めさせることができる。</p>					
終末	<b>ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。</b>				
	<p>(感想) 授業のねらいについてまとめようとする意図は見えたと、 「これからは、〇〇し ましようね」など教員の思いを押しつける面が見受けられた。</p> <p>(改善の方策) 児童(生徒)が、「授業で最も感じたことは何ですか。」とか「授業から今後の生活につながることは何ですか。」など、授業から、これからの課題を自分なりに確かめることができるように、書く活動を取り入れたらよいと思う。</p>				

授業参観シート

記入者 ( )

日時	平成 年 月 日 ( )	教科等	道徳	学年		
单元名				授業者		
授業参観者の感想及び改善の方策について						
導入	<b>道徳的価値の自覚に向けての動機付けや学習意欲の喚起について</b>					
	(感想)					
-----						
(改善の方策)						
展開	<b>ねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める。</b>					
	<b>資料提示について</b>					
	(感想)					
	-----					
	(改善の方策)					
	<b>発問について</b>					
	(感想)					
	-----					
	(改善の方策)					
	<b>話し合い活動、表現活動について</b>					
	(感想)					
	-----					
(改善の方策)						
<b>板書について</b>						
(感想)						
-----						
(改善の方策)						
終末	<b>ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。</b>					
	(感想)					
	-----					
(改善の方策)						



## 参考資料

文部科学省「小学校学習指導要領解説道徳編」 平成20年 8 月

文部科学省「中学校学習指導要領解説道徳編」 平成20年 9 月

文部科学省「高等学校学習指導要領解説総則編」 平成21年11月

茨城県教育委員会「高等学校道徳教育指導資料－魅力ある「道徳」の実践を目指して－」

平成24年 3 月

赤堀博行著 「道徳教育で大切なこと」東洋館出版社 平成22年 7 月

横山利弘 「生徒指導の充実のために」独立行政法人教員研修センター 平成24年 3 月

## 付記

平成26年 1 月 7 日 III 道徳の時間（「道徳」）授業構想の 1 と 5 を一部改訂